



いわき平ロータリークラブ週報

2530

創立 1953.6.18

承認 1953.6.29

■ 事務局 / 福島県いわき市平字白銀町 4-13 不二屋第二ビル2F

(0246) 25-3000

■ 例会場 / いわきワシントンホテル橋山荘

(0246) 35-3000

■ 例会日 / 毎週木曜日 p.m.12:30 ~ 13:30

会長：山野辺倉平 幹事：阿部 弘行 発行：会報・広報委員会

第 2855 例会 (30号) 2013 年 2 月 21 日 (木) 晴れ

外部卓話 SPEECH

「原子力に依存しないエネルギーと安全・ 安心な社会を目指す地域復興人材育成」

福島高専副校長・地域復興支援室長

青柳 克弘 様



【地域復興人材育成事業の目的】

第1に復興人材育成：再生可能エネルギー、原子力安全、減災の3分野に関する専攻科教育（一部本科教育）を行う。第2に復興支援技術の研究・開発・普及促進。上記の3分野に関する最新技術開発に関する研究開発・地域モデルの提示・地域の放射線計測支援・社会人教育を行う。

【地域復興人材育成事業の概要】

この事業は地域復興支援室を中心に行う。支援室には再生可能エネルギー分野2名、原子力安全分野2名、減災分野1名の新規採用教員を含めて約40名（全教員約80名の半数）の関連分野教員が参加している。専攻科には平成25年度から定員5名の復興人材育成特別コースが開設される。専攻科定員は20名から25名に増加するが、特別コースの学生は従来の各専攻に在籍しながら地域復興支援室の教員を中心とした特別コースの教育を受けることになる。平成25年度は、30名の入学希望者の内、15名が特別コースを希望しており、地域復興のために力を尽くしたいと考えている学生が多いことが分かり、心強く思っている。本年度から、本科5年生にも基礎となる復興支援特別科目を3科目開設して教育を行っている。

震災で被害を受けた企業の技術者等を対象に社会人特別教育プログラムを実施して、企業の復興、再就職のための支援を行っている。他にも、大学や研究機関等と連携して復興のための教育、研究、人材育成を行っている。また、地方自治体や地域住民等に対する放射線計測や安全な街づくり支援も行っている。

【再生可能エネルギー分野の教育・研究・社会貢献】

スマートグリッド実規模実験装置を校内に設置した。ガスエンジンコージェネレーションシステム、風力発電機、太陽光発電装置、実験負荷接続端子、制御システム、シミュレータ等で構成され、電力系統と連系して校内負荷に電力を供給する実運用実験システムで、災害時等における停電に対しても、分散型発電機の自立運転により重要負荷への電力供給及び熱（湯）供給が可能となっている。学校やホテル等の建て替えや改修時にはこの方式を取り入れてほしいと考えており、是非見学に来ていただきたい。

【原子力安全分野の教育・研究・社会貢献】

原子力発電所事故の終息のために安全教育、放射線教育、研究開発、地域貢献等を通じた復興人材育成を行っている。そのために、高純度ゲルマニウム放射線測定器（セシウム等のガンマ線の測定）、液体シンチレーションカウンター（ス

ترونチウム等のベータ線も測定可能）、誘導結合プラズマ質量分析装置（ほとんどの元素の定性・定量、同位体比測定が可能）を設置した。

【減災分野の教育・研究・社会貢献】

地理情報システム（GIS）を用いて地域データベースを構築し、地域と連携した教育・研究の展開や地域防災計画の策定等を通して、地域システムの構築と復興まちづくりを支援する。

【平成 23 年度の成果】

この事業は、平成 23 年度の補正予算によるもので、多くの成果は得られなかったが、福島高専地域復興支援室の設置、専攻科（本科）教育プログラムの策定、教育研究設備購入のための手続き、講習会・講演会の開催、高専機構・福島高専と日本原子力研究開発機構との協定・覚書締結等を行った。

【平成 24 年度の実施状況】

スマートグリッド実規模実験装置、高純度ゲルマニウム放射線測定器、液体シンチレーションカウンター、誘導結合プラズマ質量分析装置を設置した。

1) 教育

本科で復興支援特別科目（放射線管理学概論、環境・エネルギー工学概論、防災通信工学）を開講した。エネルギープラント構造材料評価を通じた学・学・官連携によるインターシップ等の原子力安全人材育成事業を行った。

再生可能エネルギー、原子力安全、減災の3分野の社会人特別教育プログラムを実施した。今年度は、「風力発電技術」、「技術者支援のための放射線基礎講座」、「災害と復興まちづくり」をテーマに行った。「風力発電技術」の第3、4回についてはこれからの開催になるので、ロータリークラブの皆様にも是非ご参加いただきたい。

2) 研究

産学連携による放射性セシウムの分離・回収技術の開発、均一液抽出法を用いたセシウムの簡便な分離・濃縮法の開発、東日本大震災による被災状況調査を通じた現状の明確化、減災基盤整備にむけて（いわき市における津波ハザードマップの提案）等を行った。

3) 地域貢献

放射性物質の依頼分析を行った。現在は地方公共団体、福島高専協働会等が対象となっている。再生可能エネルギー、原子力安全、減災の3分野に関する福島高専地域フォーラム、「風力発電への期待」、「放射線の基礎に関する講演会」、「東日本大震災復興まちづくり講演会」を開催した。

【平成 25 年度の実施計画】

専攻科で復興支援特別科目（再生可能エネルギー発電工学・電力流通工学・原子炉工学放射線安全工学・減災工学（以上は新設）、エネルギー変換工学・安全工学総論・環境保全工学・防災工学・都市経済学・工学実験（復興支援関係実験）・特別研究（復興支援関係研究）（以上は既設））を開講する。これらの科目、特に工学実験や特別研究等におけるデータ解析等にはパソコンは不可欠であり、今回の、ロータリークラブからのパソコンの贈呈には大変感謝している。来年度、復興人材育成特別コースを希望している15名の学生のうち5名にパソコンを貸与するが、地元に残り、地域復興のために力を尽くしたいと考えている学生から選抜したいと考えている。



2012~2013年度
国際ロータリーのテーマ

「奉仕を通じて平和を」

Peace Through Service

「出席はロータリアンの3大義務の1つです」

◆司会：阿部幹事

〔点鐘・ロータリーソング（奉仕の理想）・
四つのテスト（越智正典会員）



越智正典会員

◆来賓・来訪ロータリアンの紹介

福島高専副校長・地域復興支援室長の青柳克弘様

★誕生祝



「予定より早く産婆さんが来る前に生まれたらしい。だから今も気が早いのかな…」

黒須幸雄さん
(2月19日)

ハッピーバースデーソング斉唱

◆会長挨拶ならびに報告



15日にロシアに隕石が墜ちた。大気圏突入前の隕石は直径17メートル、重さ約1万トンだったそうだ。広島型原爆の30倍のエネルギーが衝撃波として放出され、約1200人がけがをした。地震や津波、大雨、大雪、隕石など天災は忘れたころにやって来る。日ごろからの備えが大切だ。

ロシアの隕石を車のウインドウ越しにカメラで捉えた動画がユーチューブで流れた。ロシアでは交通事故が起こると、どちらの責任が重いか判断するのに警察も不正することが多いらしい。だから、自主防衛のためダッシュボードの上にカメラを付けて運転する人が多いという。つくづく日本はいい国だと思う。

いわき平ロータリークラブが復興支援で福島高専に援助する。きょうは福島高専副校長の青柳克弘さんに復興人材育成の取り組みについて卓話をいただく。



中之作で練り広げられた吊し雛

◆幹事報告

○いわき福音協会・福島整肢療護園から「年忘れ家族会」で贈った寄付金に対して感謝状が届きました。

委員会報告

◆出席委員会（志賀弘昌委員長）

例会日	基本会員数	出席者	メーキャップ数
2月21日	52名	29名	—

◆スマイルボックス委員会（松崎浩委員長）

♥山野辺倉平さん（青柳先生を歓迎します。卓話よろしくお願ひします）♥志賀弘昌さん（青柳副校長先生卓話よろしくお願ひします）♥越智正典さん（青柳先生卓話よろしくお願ひいたします）♥森雄治さん（青柳副校長様卓話よろしくお願ひ致します）♥酒井睦雄さん（高専教授青柳先生の卓話歓迎）♥関口武司さん（青柳先生卓話宜しくお願ひします）♥佐々木芳弘さん（青柳先生の卓話よろしく）♥奈良宏一さん（福島高専の復興人材育成事業への御支援ありがとうございます。今日は事業の概要を説明させていただきます）♥黒須幸雄さん（誕生祝ありがとうございます）♥坂本佳友さん（本日よりお願ひいたします）♥鈴木浩さん（皆様寒いですがお体に気をつけて下さい）♥三瓶和秀さん（すいませんが、早退させていただきます）♥山崎慶一さん（早退させていただきます。ネームバッジ持ち帰り忘れ）以上、13件



2月は国際理解月間

★本日の例会案内 2月28日 PM12:30～
会員卓話 江尻義久会員
お食事メニュー＝春野菜のてんぷら

★次回の例会案内 3月7日
IM振替で休会